

[成果情報名] 水稻奨励品種「西海250号」の栽培特性

[要約] 水稻「西海250号」は、「かりの舞」に比べ出穂期で4日、成熟期で7日早い中生の晩である。稈長がやや長く耐倒伏性はやや弱い、千粒重が重く収量性が高い。玄米の外観品質も優れ、食味は「ヒノヒカリ」並の良食味である。

[キーワード] イネ、奨励品種、西海250号、良食味、多収

[担当] 総合農林試験場・作物園芸部・作物科

[連絡先] 電話0957-26-3330、電子メールj-koga@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 農産

[分類] 普及

[背景・ねらい]

長崎県では「ヒノヒカリ」が水稻作付面積の約7割を占めており、1品種への集中は収穫体系や共同乾燥施設利用の分散、気象災害の回避等の面から問題となっている。また、平坦地向け晩生品種である「かりの舞」は成熟期が遅いため充実不足による品質・収量の低下がおりやすく、作付面積は減少している。

このため「ヒノヒカリ」と熟期分散ができ、かつ「かりの舞」より熟期の早い良質、良食味品種の選定が必要である。

[成果の内容・特徴]

「西海250号」（は系626／北陸174号：九州沖縄農業研究センター育成）は「かりの舞」と比較して次のような特性を有する。

1. 出穂期で4日、成熟期で7日早い“中生の晩”である（表1）。
2. 稈長はやや長く、耐倒伏性はやや弱い（表1）。
3. 穂長は同程度で、穂数は多く、一穂粒数は少ない（表1）。
4. 玄米の千粒重は重く収量性は高い（表1）。
5. 玄米の外観品質は優れ、粒張りが良く、粒厚も厚く、粒揃いも良い（表1、2）
6. 食味は「ヒノヒカリ」並に優れる良食味である（表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 出芽が早く苗が徒長しやすいので、育苗管理に注意する。
2. 生育初期には葉が長きたれるので、深水にならないように注意する。
3. 稈長が長く、稈質が柔らかいため、強風にあおられると株元がゆるくなり倒伏しやすくなるので、中干しを十分に行う。
4. いもち病にやや弱いので常発地での栽培は避けるとともに、その他の地域においても、いもち病に対する適期防除を行う。
5. 多肥栽培で増収するが、極端な多肥栽培は倒伏し、品質、食味が悪くなるので避ける。
6. 県央、県南地区の平坦地を対象に、「かりの舞」と「ヒノヒカリ」の一部に替えて約1,100haに普及予定である。

[具体的データ]

表1 生育、収量、品質

品種・ 系統名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	一穂 粒数 (粒)	千粒 重 (g)	精玄 米重 (kg/a)	倒 伏	品 質	心白 粒 (%)	乳白 粒 (%)	背白 粒 (%)
標 西海250号	8.28	10.12	78.2	18.7	308	79.9	24.9	54.3	0	1.7	2.8	0.4	0.3
肥 かりの舞	9.1	10.19	75.9	19.0	284	94.9	23.7	52.7	0	2.4	5.6	0	0
ヒノヒカリ	8.25	10.7	79.4	19.5	311	89.1	23.3	53.3	0	5.2	10.6	2.6	8.7
多 西海250号	8.27	10.14	83.8	19.9	326	83.0	24.9	65.6	0.5	3.0	4.2	3.6	0.2
肥 かりの舞	9.1	10.19	82.2	19.7	294	97.3	23.8	58.9	0	3.5	4.3	1.2	0.2
ヒノヒカリ	8.24	10.8	86.0	20.0	347	90.7	23.4	59.6	0.7	6.8	8.1	13.3	7.0
現 西海250号	8.29	10.5	82.0	17.4	355	-	23.3	54.9	0	2.0	-	-	-
地 かりの舞	9.2	10.16	75.0	18.8	283	-	22.5	45.9	0	3.0	-	-	-

注1) 標肥：移植期6月17日、施肥量(Nkg/10a)基肥-追肥-穂肥=5-2-3 (2002~2004年)

2) 多肥：移植期6月17日、施肥量(Nkg/10a)基肥-追肥-穂肥=7.5-2-4.5(2003~2004年)

3) 精玄米重は2004年が台風被害による減収のため、標肥は2002~2003年の平均値、多肥は2003年の数値。

4) 品質：1(上の上)~9(下の下)の9段階表示

5) 現地は諫早市の平坦地。2004年が台風被害による減収のため2003年のデータ。移植期は6月20日、施肥量(Nkg/10a)は基肥-穂肥=4.2-2.4。

表2 粒厚分布(重量比%)

品種・系統名	標 肥			多 肥		
	2.0mm 以上	1.9mm 以上	1.8mm 以上	2.0mm 以上	1.9mm 以上	1.8m 以上
西海250号	86.9	92.6	95.5	84.8	90.5	93.9
かりの舞 (標)	59.1	84.2	93.2	52.3	80.5	91.1
ヒノヒカリ(比)	75.7	89.9	95.6	73.7	89.3	95.1

注) 標肥、多肥とも2003~2004年の平均値

表3 食味試験結果

品種・系統名	実施月日	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ	パネル数
西海250号	2002.11.27	0.000	0.050	0.000	-0.100	-0.050	-0.300	20人
	2003.11.14	0.050	0.000	0.050	0.000	0.100	-0.450*	20人
	2004.11.17	0.200	0.300*	0.300*	0.100	0.200	-0.100	20人
西海250号	2004.11.26	0.000	0.385*	0.154	0.000	0.308	-0.294	15人
かりの舞	2004.11.26	0.000	0.385*	0.077	0.077	0.000	0.000	15人

注1) *は5%の有意水準で基準品種と有意差があることを示す

2) 基準品種はヒノヒカリ

[その他]

研究課題名：稲・麦・大豆奨励品種決定調査

予算区分：県単

研究期間：2002~2004年度

研究担当者：古賀潤弥、土谷大輔、岳田司、佐田利行